

正しい知識を持って受けよう!

がん検診



1 杉並区のがん検診は「対策型がん検診」です

がん検診は、定期的に受けることで、がんによる死亡リスクが下がることが科学的に証明されており(利益)、検診による不利益とバランスが取れた検診を行うことが国際基準となっています。

区内医療機関では、様々な検診や検査方法(任意型がん検診)が行われていますが、区ではこの基準に従い、国や国立がん研究センターが推奨するがん検診(対策型がん検診)を実施しています。

	対策型がん検診 (杉並区のがん検診)	任意型がん検診 (医療機関等の人間ドックなど)
目的	区民のがんによる死亡率を下げる	個人の目的や意思による
検診方法	がんの死亡率減少効果が科学的に証明されている検診	科学的根拠が不明ながん検診も提供される場合がある
費用	公的費用を使用 (一部自己負担)	全額自己負担

2 がん検診の主なメリット(利益)・デメリット(不利益)

がん検診にはメリットだけでなく、デメリットもあります。
それでもがんから命を守るためには、がん検診を受けることが大切です。

メリット(利益)

○がんによる死亡を防ぐ

区が実施する「対策型がん検診」は、がんによる死亡を確実に減少することが科学的に証明されています。

○治療効果が期待できるがんが見つかる

がん検診は「症状がない健康な人」が対象です。そのため、検診では、がんが「早期の段階」で見つかりやすく、早期のがんはそのほとんどが治り、しかも身体的負担が少ない治療ですみます。

○安心が得られる

がん検診を受けて「がんがない」と確かめられるので、安心できます。

デメリット(不利益)

○がんが100%見つかるわけではない

どのような優れた検査でも100%の精度はありません。また、がんは発生してから、一定の大きさになるまで検査で発見できないことや、がんが見つかりにくい形や場所にあることがあります。そのため、「がんの疑いなし」と判定される場合が生じます。

○不必要な検査や治療が追加になる場合がある

がんがない場合でも検診で「がん疑い」のため精密検査が必要になったり、極端に進行の遅いがんが見つかることがあります。

○検査によっては偶発症が起こる可能性がある

検査によっては、放射線被ばくや出血、穿孔(胃壁などに穴が開くこと)などの偶発症が起こる場合があります。

○検診による心理的影響がある

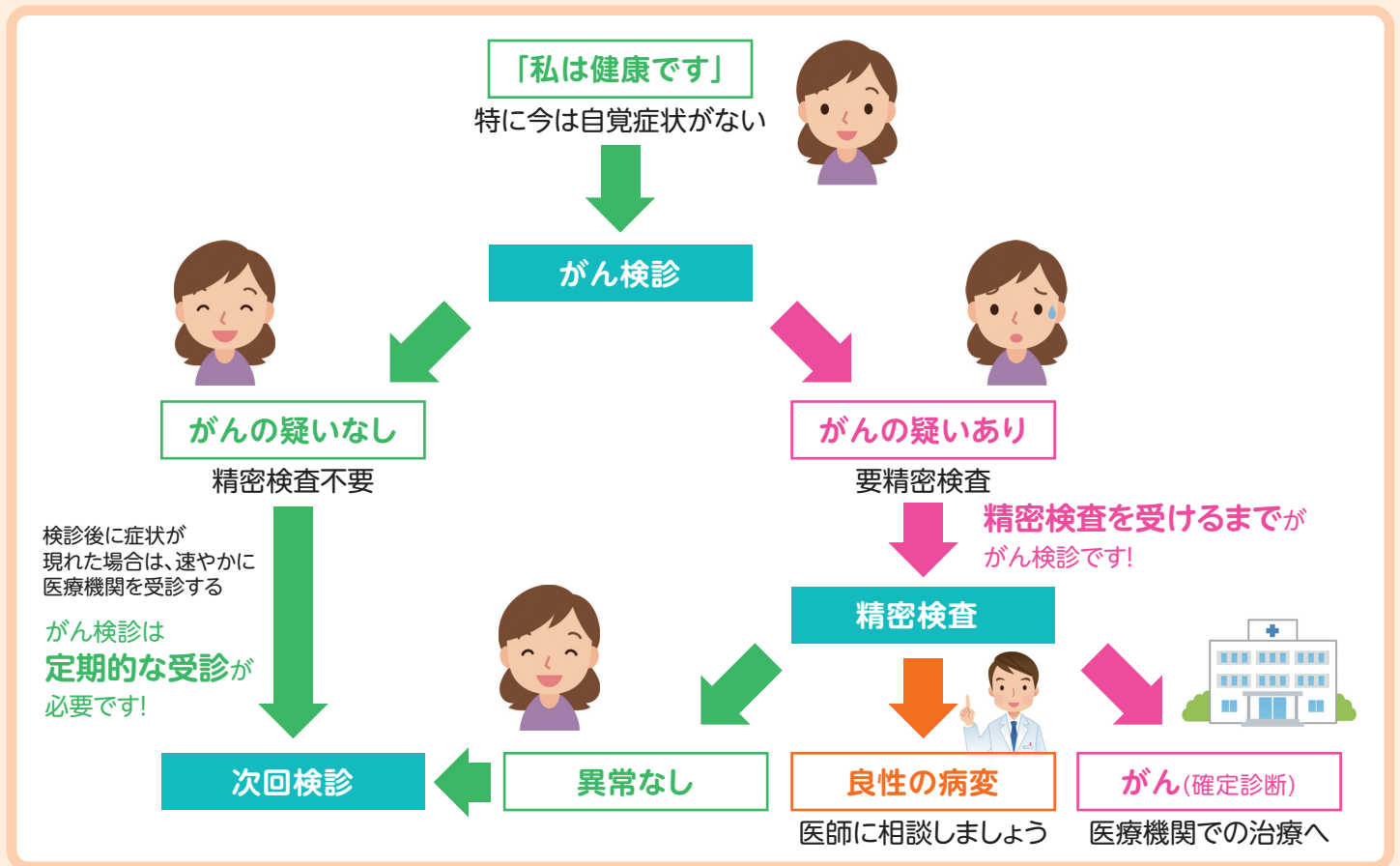
検診で「がんの疑いあり」となった場合、精密検査の結果が出るまでの間、心理的負担が大きくなります。

区では、「メリットがデメリットを上回り、命を守るために受けるべき検診」として対策型がん検診を実施しています。

ぜひ、対策型がん検診を定期的に受けて、がんから命を守りましょう。

3 がん検診の流れ

がん検診の流れは以下のとおりです。



4 がん検診の対象者は?

自覚症状がない健康な人が対象です。

症状がある人、すでに経過観察中の人は、検診ではなくかかりつけ医の定期通院が必要です。

※無症状の時は、進行がんが少なく、早期にがんを発見でき治療につながります。

5 要精密検査(要精検)といわれたら?

がんの可能性があるということです。

すみやかに精密検査を受診しましょう。

※症状がないからといって精密検査を受けないと、早期に見つかるはずのがんを放置してしまうことになり、がん検診を受けた意味がありません。

6 がん検診は1回受ければいいのか?

定期的な受診が必要です。

各がん検診の受診間隔に合わせて受診しましょう。

※検診後のがんができることもあります。ごく小さながんは一度の検査では発見が困難です。定期的に検診することで、がんの発見が可能になります。